ながの地域まるごとキャンパス活動報告会・修了証授与式
NPO カフェまんまる「出会って、つながって、コラボしよう！
～協働の大交流会～

日時：2024 年 2 月 3 日(土)　11:00～15:00
場所：長野県立大学　三輪キャンパス
参加人数：77 人（内学生 30 人）
主催：長野市　協力：長野県立大学
運営：特定非営利活動法人　長野県 NPO センター
　　ながの若者スクエア『ふらっと♭』
　　ながの地域まるごとキャンパス事務局

□内容□

当日スケジュール

【第 1 部　活動展示、交流会】11:00～13:20
【第 2 部　ながの地域まるごとキャンパス報告会・修了証授与式】
13:20～14:20
【第 3 部　市長×若者交流会】14:20～15:20

『今回の報告会・交流会のねらい』

今回は市民協働サポートセンターの交流会「カフェまんまる」とながの若者スクエアふらっと♭の「ながの地域まるごとキャンパス」の報告会を同時開催しました。

□目的□

ながの地域まるごとキャンパスに参加した団体及び学生（若者）が一堂に介し団体・学生・学校・企業・遅延組織が出会いと交流。ほかのプログラムの活動内容に直接触れることで、参加経験がなくても新たな活動への参加のきっかけをつくります。それにより学生は新たな活動への参加意欲を高め、団体は学生が参画しやすいプログラムの参考になります。

漠然とした「何かやってみたい」という気持ちから、学生が経験することで明確な「これに取り組みたい」へ変化への後押しの場となるような情報の発信をおこなっていきます。

また荻原市長と共通の話題で討論会をおこない、市政に関心を持つきっかけにつなげます。

【第１部：活動展示】

第１部の活動展示では、全 37 プログラム中 12 団体のブース出展と 15 団体のポスター展示あわせて 27 団体の参加がありました。自分が参加した団体で活動紹介をする学生もあり、参加者との対話から学生と団体の相互に気づきがありました。

第 1 部の途中では荻原市長が出展ブースを

回り、各団体からの説明を受けながら「現地までの送迎方法はどうしているか？」「動物園で明かりをともす灯篭は一からつくるのか？」など、細かい内容まで説明を受ける部分もありました。

天空の里いもい農場に参加した学生からは、「一年を通して参加できたこと、美しい景色の移り変わりを見ることができた。また普段はできない農業を通じて、地域の人との触れ合いができたことがとてもよかった」また第三地区住民自治協議会へ参加した学生からは、「お祭りを通じて小さい子と触れ合う中で、自分の考えや価値観が変わった」などの感想があり、それぞれが体験したからこその活動の魅力が語られました。

【第２部：ながの地域まるごとキャンパス報告会・修了証授与式】

ここからファシリテーターは、大倉健輔さんと松尾有紗さん（ともに長野県立大学）。ながの地域まるごとキャンパスに参加した学生と提案団体代表者による活動報告発表です。

登壇学生は、斉藤桔梗さん（長野県立大学１年）と伊藤遥々さん（鹿島学園高校 2 年）、提案団体代表者は山岸裕始さん（一般社団法人信州子育

てみらいネット）の３名です。
参加して自分の中に変化はありましたか？という質問に
伊藤さんからは、「主体性が生まれました。本の紹介を書く場面などで、団体の方のやり方を教えてくれる中で、自分がどうしたいのか？どんなことを書きたいのか？を考えて行動することを重んじてくれた。また、来店した人と接するときの会話の仕方とかの手本を見せてくれたことで、どのように動けばいいかがわかり、自分から挑戦していくことができました」
斉藤さんからは、「魅力的なことがたくさんあり、やりたいと思うことを口に出せば大人が助けてくれた。自分の中でやりたいと思うことが増えていき、支えてくれる方がたくさんいて、チャレンジするマインドが高まりました。」という声が上がりました。

提案団体が学生とのかかわりの中で感じたこととして、
山岸さんは、「今の学生はとても優秀。自分の意見を自分の言葉で答えてくれる。子育てがわからない中でも学びながら関わってくれていた」と話していました。

これからまるごとキャンパスへ参加したいと思っている人へ一言
「勇気が必要だったけど、あたたかい人が多く、自分を延ばすことにつながる。苦手克服のチャンスなので、一歩踏み出して自分を成長させてほしい」と伊藤さん。また、斉藤さんからは、「やりたいと思うことをかなえてくれる大人が多い。現状の地域課題を知ることができる。ためらわずに進んでほしい」と励ましの声がありました。
　提案側として「ボランティアに踏み出すまで敷居が高いと思われがち。しかしそうではなく優しく受け入れる大人ばかりなので、来年も参加してほしい」と山岸さんも背中を押しました。

　引き続き、斉藤さんと伊藤さんの２人が代表者として修了書を荻原市長と長野県 NPO センター山室秀俊代表理事より授与されました。

ながの地域まるごとキャンパス2023
修了証
殿
あなたは、ながの地域まるごとキャンパス2023に参加し、
地域活動に多大なる貢献をしました。
長野市長 荻原健司
長野県NPOセンター代表理事 山室秀俊

授与に際して市は、「地域と一体となった活動が大事。箱の中の体験以外が人生をつくる。それが地域をつくり、文化になる」と引き続きこの事業を支援していきたいと力強く語りました。

【第３部：市長×若者の大討論会】

冒頭、市長のプロフィール紹介と市長クイズで場の雰囲気を柔らかくしてから、本番のさいころ TALK へと進みました。

■さいころ TALK　※市長や学生がサイコロを振り、出たさいの目の質問に会場参加者が答え、市長がコメントします。質問は６つ

①誰かと取り組んでみた活動ってある？どうやったらもっと仲間を増やせるかな？
②長野市に友達に紹介したいおすすめの場所ってある？
　さらにどんなもの・ところがあったら楽しい？
③長野市のプロスポーツチームの試合見たことある？
　みんなで盛り上がるにはどんなことがあればいい？
④普段の移動手段はなに？これからどんな移動手段ができたらうれしい？
⑤過去に戻りたいタイミングかタイムトラベルしたい時代ってある？
　それはなんで？
⑥１０年後の自分はどこで何をしているかな？長野に残ろうって思う？

さいころ TALK は全部で４つの質問に答える形となりましたが、⑥の 10 年後の質問について長野への愛着がある若者が多い印象が残りました。

■１０年後の自分はどこで何をしているかな？長野に残ろうって思う？

「地元で育ったことで、仲間もいるし愛着もあるので長野に残っていたい。それを手放すのは難しいく、帰巣本能みたいなものがあるのだと思う。」

「また長野から出ようという考えはない。近所の人に会うと会話ができるあたたかさが心地よく、長野は人がやさしいし、自然が近いということを考えると、このまま残って住み続けたいと思う」という声が多くの参加者から聞かれました。

荻原市長からは自分が市長になった理由として、「スキーのジャンプの競技でルールの変更があり、試合に勝てなくなり苦しむ経験をした。自分がルールを作る立場の場所に行きたいと思った。それを考えていたときにちょうど政治へのお誘いがあり、そこでルールを作る側になれると思った。しかし指導者になりたかったという想いを実現できなかったことは心残り。長野は自然が豊かで、人もあたたかい。ここで仕事ができる幸福感は強く持っているので、今やりたいことをやり、10 年後のためにも若者がチャレンジできる環境をつくっていきたいと話がありました。

また、フリートークでは、市長がやってみたいことについての質問が会場から飛びました。

「自分は若いころスキーしかやってこなかったので、学びの機会は持ちたいと考えている。不登校生徒自らがやってみたい、参加してみたいということを増やしていきたい。学校で学問として学ぶのは半日で、得た知識が現場で役立ち活躍できる街にしたい。長野市らしい教育、居心地がいい場所の提供をすることで、これからの教育をどうしていきたいかをみんなで考えていきたいと思う」とのことでした。

□まとめ□

【荻原市長から会場の若者へ】

自分も好きなように生きてきた。やりたいことをやってください。今を充実させること。面白いものに没頭していくことが幸せである。そこに本物の体験がある。人生は人に与えられるものではない。今自分がやりたいことに集中してやっていってほしい。

【ながの地域まるごとキャンパス事務局担当から】

まるごとキャンパスに参加した若者たちが成果を発表できる場があったことで、若者も大人も次の新しい活動、やりたい事へのチャレンジにつなげることができたと実感しています。

団体の皆様には、1年間学生を受け入れていただきありがとうございました。来年度も多くの学生が参加できるよう、長野の未来をつくる若者たちの「やりたい」「やってみたい」を大切に、様々な活動につなげていきたいと思います。